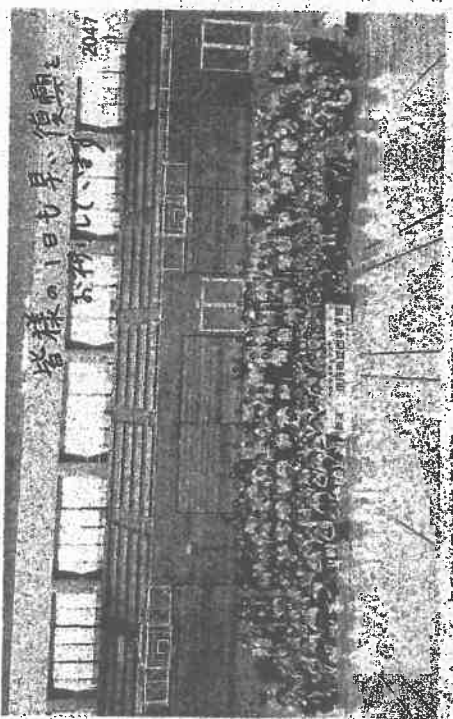




唐松

●唐津支社 0955-0072(72) 7478 0955-0072(72) 7477

伊丹市の西中学校の修学旅行時の集合写真。義援金と共に送られてきた



唐津・玄海民泊が縁

佐賀県

支援の輪

唐津市と玄海町では、修学旅行の中高生を一般家庭で受け入れる民泊が盛んに行わ

唐津市
玄海町

8月末に佐賀県を襲った豪雨を受け、兵庫県伊丹市の西中学校(大西規之校長)が2日、義援金10万円を被災地へ送った。今年5月の修学旅行で唐津玄海地区に民泊した縁から、生徒と保護者が協力して寄付金を集めた。受け取ったNPO法人が、唐津市を通して日本赤十字社佐賀県支部に届けた。

唐津市と玄海町では、修学旅行の中高生を一般家庭で受け入れる民泊が盛んに行われている。NPO法人唐津・玄海観光交流社が、交流人口を増やすために実施している。同校の3年生178人ばかり。月末、交流社の仲介で地域の45家庭に1泊した。地元食材を使った料理を一緒に作った。釣りや釣りをしてホテルでは味わえない時間を過ごした。その後、生徒らは8月末の豪雨で佐賀県が被災に遭ったことを報道で知った。生徒会

唐津市の皆様へ
修学旅行では、大変お世話になりました。今でも楽しかった思い出は忘れられません。先月の豪雨で大変な被害を受けられたとのことと聞き、生徒会でも募金活動を行いました。夏祭りの売り上げの一部をPTAの方から支援してもらいました。少しですが役立てて下さい。

伊丹市立西中学校
生徒会長 大迫波瑠

佐賀県を中心に支援に向けて動き出し、校門前々募金を呼び掛けた。保護者も、夏祭りへの出席で得た収益の一部を募金した。

義援金は9月30日、観光交流社に送られた。3年で生徒会長の大迫波瑠さんの手紙も同封してあった。「今でも楽しかった思い出は忘れられませんが」と民泊を振り返り、「少しでも役立ててください」と結んである。

交流社の坂口孝徳理事長(2)は「佐賀県で一晩過ごしただけで、豪雨の二重苦を見て行動してくれたのだから、生徒の思いやりは素晴らしい」と喜ぶ。義援金は県共同募金会などをつくる配分委員会を通じて被災者に届けられる。(藤本拓希)

西中学校の生徒会会長の大迫波瑠さんからの手紙。義援金に同封されていた